

# 2011年 大会記録

## 国際

### ◇ヤリギン国際大会（1月28～30日、ロシア・クラスノヤルスク）

《男子フリースタイル》▼55kg級 湯元進一（自衛隊）＝3位、▼55kg級 稲葉泰弘（警視庁）＝一失、▼60kg級 湯元健一（ALSOK）＝三失、▼60kg級 高塚紀行（自衛隊）＝二失、▼66kg級 米満達弘（自衛隊）＝2位、▼66kg級 小島豪臣（K-POWERS）＝二失、▼74kg級 鈴木崇之（警視庁）＝一失

《女子》▼51kg級 宮原優（JOCアカデミー／東京・安部学院高）＝5位、▼55kg級 村田夏南子（JOCアカデミー／東京・安部学院高）＝優勝、▼59kg級 島田佳代子（自衛隊）＝5位、▼63kg級 伊調馨（ALSOK）＝優勝、▼67kg級 土性沙羅（愛知・至学館高）＝5位、▼72kg級 鈴木博恵（立命館大OG）＝二失

### ◇「キキ・カップ」男子グレコローマン対抗戦（1月29日、米国・コロラドスプリングズ）

- ▼1回戦 米国（海軍）○ [15-12] ●日本、
- ▼2回戦 米国（NYAC）○ [18-9] ●日本、
- ▼3回戦 米国（サンキスト）○ [18-5] ●日本
- ▼4回戦 日本○ [16-10] ●米国（ミシガン・ジュニア）

### ◇デーブ・シュルツ国際大会（2月3～4日、米国・コロラドスプリングズ）

《男子フリースタイル》▼55kg級 松永共広（ALSOK）＝3位、▼60kg級 前田翔吾（ニューギン）＝2位、▼66kg級 藤本浩平（警視庁）＝2位、▼84kg級 松本真也（警視庁）＝5位、▼84kg級 松本篤史（ALSOK）＝3位、▼96kg級 磯川孝生（徳山大職）＝四失、▼120kg級 荒木田進謙（専大クラブ）＝三失

《男子グレコローマン》▼55kg級 峯村亮（神奈川大職）＝5位、▼60kg級 倉本一真（自衛隊）＝5位、▼66kg級 岡本佑士（拓大）＝2位、▼74kg級 角功介（自衛隊）＝三失、▼84kg級 岡太一（拓大）＝6位、▼96kg級 斎川哲克（両毛ヤクルト販売）＝6位、▼120kg級 新庄寛和（自衛隊）＝5位

### ◇シャヒード・バカト・シン国際大会（2月9～11日、インド・ジャランダー）

《男子フリースタイル》▼55kg級 守田泰弘（山口県協会）＝7位、▼55kg級 森下史

崇（日体大）＝3位、▼66kg級 池松和彦（池松オリンピックアカデミー）＝6位、▼74kg級 奈良部嘉明（山梨学院大OB）＝2位

《男子国別対抗得点》[1] インド、[2] カナダ、[3] パンジャブ、[4] グルジア、[5] 日本、[6] 米国

《女子》▼48kg級 鈴木綾乃（ジャパンビバレッジ）＝2位、▼51kg級 桜井宏美（リンクアップ平野屋）＝優勝、▼55kg級 平野遥香（日大）＝優勝、▼63kg級 平野翔子（東海大）＝4位、▼67kg級 飯島千晶（日大）＝優勝

《女子国別対抗得点》[1] インド、[2] 日本、[3] ナイジェリア、[4] 米国、[5] カナダ

**◇ダン・コロフ国際大会＝男子フリースタイル（2月25～27日、ブルガリア・ブルガス）**

▼55kg級 半田守（専大）＝二失、▼60kg級 石田智嗣（早大）＝一失、▼66kg級 田中幸太郎（早大）＝3位、▼74kg級 葉沢謙（国士舘大）＝一失、▼74kg級 高谷惣亮（拓大）＝二失、▼84kg級 鈴木聖二（専大）＝二失、▼84kg級 山口剛（早大）＝一失、▼96kg級 脇本恭平（立命館大）＝敗復失、▼120kg級 岡倫之（日大）＝5位

**◇ニコラ・ペトロフ国際大会＝男子グレコローマン（2月25～27日、ブルガリア・ブルガス）**

▼55kg級 梶雅晴（山梨学院大）＝一失、▼60kg級 内村 勇太（拓大）＝一失、▼66kg級 岡本佑士（拓大）＝5位、▼74kg級 中井伸一（中大）＝一失、▼84kg級 天野 雅之（中大）＝敗復失、▼96kg級 有菌拓真（山梨学院大）＝一失

**◇クリッパン女子国際大会（3月4～6日、スウェーデン・クリッパン）**

《シニア・ジュニア》▼48kg級 伊藤千草（埼玉・埼玉栄高）＝5位、▼48kg級 入江ゆき（福岡・小倉商業高）＝優勝、▼51kg級 櫻井友香（東京・安部学院高）＝3位、▼51kg級 齋藤ほのか（東京・安部学院高）＝2位、▼55kg級 村田夏南子（JOCアカデミー／東京・安部学院高）＝2位、▼63kg級 吉井瑞江（群馬・富岡実高）＝9位

《シニア国別対抗得点》[1] ポーランド、[2] アゼルバイジャン、[3] 日本

《カデット》▼38kg級 浅倉栞南（ゴールドキッズ）＝優勝、▼40kg級 加賀田葵夏（ゴールドキッズ）＝優勝、▼46kg級 坂上楓舞希（ゴールドキッズ）＝2位、岡本佳子（北九州クラブ）＝優勝、▼49kg級 三浦美優（沼津クラブ）＝四失、宮原優（JOCアカデミー／東京・安部学院高）＝優勝、▼52kg級 廣瀬瑠実（沼津クラブ）＝四失、向田真優

(JOCアカデミー) = 三失、木村安里 (群馬・西邑楽高) = 五失、入江ななみ (福岡・小倉商業高) = 五失、金子和 (群馬・大泉高) = 4位、▼56kg 級 坂野結衣 (東京・安部学院高) = 優勝、入江くみ (北九州クラブ) = 3位、▼56kg 級 花田彩乃 (JOCアカデミー) = 四失、▼60kg 級 香山芳美 (大楠ジュニア) = 三失、▼65kg 級 古市雅子 (JOCアカデミー) = 優勝、▼70kg 級 斉藤未来 (千葉・西武台中) = 二失、小林由芽 (茨城・阿見町立竹来中) = 二失、阿部梨乃 (東京・安部学院高) = 2位

◇ハンガリー・グランプリ = 男子グレコローマン (3月5～6日、ハンガリー・ゾンバ

トヘイ)

▼60kg 級 松本隆太郎 (群馬ヤクルト販売) = 棄権、▼66kg 級 清水博之 (自衛隊) = 2位、▼66kg 級 岡本佑士 (拓大) = 18位、▼74kg 級 金久保武大 (マイ・スポーツ・ハウス) = 19位、▼84kg 級 斎川哲克 (両毛ヤクルト販売) = 3位

◇女子ワールドカップ (3月5～6日、フランス・リーバン)

3位

予選1回戦 日本○ [6-1] ●モンゴル

予選2回戦 日本○ [7-0] ●フランス

予選3回戦 中国○ [5-2] ●日本

3位決定戦 日本○ [6-1] ●カナダ

◇アジア選手権 (5月19～22日、ウズベキスタン・タシュケント)

《男子フリースタイル》▼55kg 級 稲葉泰弘 (警視庁) = 2位、▼60kg 級 高塚紀行 (自衛隊) = 5位、▼66kg 級 小島豪臣 (K-POWERS) = 5位、▼74kg 級 高橋龍太 (自衛隊) = 8位、▼84kg 級 松本真也 (警視庁) = 10位、▼96kg 級 下中隆広 (中京学院大学クラブ) = 10位、▼120kg 級 荒木田進謙 (専大クラブ) = 10位

《男子グレコローマン》、▼55kg 級 峯村亮 (神奈川大職) = 9位、▼60kg 級 倉本一真 (自衛隊) = 5位、▼66kg 級 清水博之 (自衛隊) = 3位、▼74kg 級 田村和男 (ワセダクラブ) = 10位、▼84kg 級 岡太一 (自衛隊) = 8位、▼96kg 級 山本雄資 (警視庁) = 5位、▼120kg 級 新庄寛和 (自衛隊) = 11位

《女子》、▼48kg 級 三村冬子 (日大) = 5位、▼51kg 級 菅原ひかり (愛知・至学館高) = 3位、▼55kg 級 松川知華子 (ジャパンビバレッジ) = 優勝、▼59kg 級 齊藤貴子 (自衛隊) = 優勝、▼63kg 級 伊調馨 (ALSO K) = 優勝、▼67kg 級 井上佳子 (クリナップ) = 優勝、▼72kg 級 浜口京子 (ジャパンビバレッジ) = 3位

◇男子ジュニア・フリースタイル・ワールドカップ（5月27～28日、ドイツ・プラウエン）

ン)

7位

予選1回戦 日本● [1-7] ○アゼルバイジャン

予選2回戦 B Y E

予選3回戦 日本● [0-8] ○グルジア

7・8位決定戦 日本○ [5-3] ●ドイツ

◇アジア・ジュニア選手権（6月9～12日、インドネシア・ジャカルタ）

《男子フリースタイル》▼50kg級 中村弦斗（京都・京都八幡高）=5位、▼55kg級 金城希龍（国士舘大）=8位、▼60kg級 花田吉弘（日大）=3位、▼66kg級 倉野真之介（法大）=9位、▼74kg級 森達也（中大）=11位、▼84kg級 細谷翔太郎（日大）=7位、▼96kg級 山本康稀（埼玉・花咲徳栄高）=8位、▼120kg級 廣瀬裕太（早大）=7位

《男子グレコローマン》▼50kg級 水野颯（法大）=9位、▼55kg級 木村洋貴（日体大）=9位、▼60kg級 齊藤潤（日体大）=7位、▼66kg級 高井紳之助（国士舘大）=11位、▼74kg級 白神龍（日体大）=8位、▼84kg級 奥田啓介（拓大）=13位、▼96kg級 大坂昂（早大）=5位、▼120kg級 坂元将悟（東洋大）=5位

《女子》▼44kg級 派遣なし、▼48kg級 登坂絵莉（愛知・至学館高）=優勝、▼51kg級 菅原ひかり（愛知・至学館高）=3位、▼55kg級 浜田千穂（日体大）=優勝、▼59kg級 伊藤彩香（至学館大）=優勝、▼63kg級 歌田圭純（東洋大）=2位、▼67kg級 橋本千紘（日大）=3位、▼72kg級 吉水麻蓉（群馬・富岡実業高）=6位

◇カザフスタン・プレジデント・カップ（6月19日、カザフスタン・アスタナ）

8位（5位以下は勝ち点で決定）

予選1回戦 日本○ [7-0] ●中国

予選2回戦 日本● [1-6] ○カザフスタンA

予選3回戦 日本● [1-6] ○ベラルーシ

予選4回戦 日本● [1-6] ○韓国

◇ゴールデンGP決勝大会（7月8～10日、アゼルバイジャン・バクー）

《男子フリースタイル》▼55kg級 半田守（専大）=11位、▼60kg級 石田智嗣（早大）=11位、▼66kg級 田中幸太郎（早大）=11位

《男子グレコローマン》▼66kg級 清水博之（自衛隊）＝9位、▼84kg級 岡太一（自衛隊）＝10位

《女子》▼51kg級 宮原優（JOCアカデミー／東京・安部学院高）＝12位、▼55kg級 村田夏南子（JOCアカデミー／東京・安部学院高）＝2位、▼59kg級 島田佳代子（自衛隊）＝3位、▼63kg級 渡利璃穂（至学館大）＝優勝、▼67kg級 土性沙羅（愛知・至学館高）＝優勝、▼72kg級 鈴木博恵（クリナップ）＝3位

**◇世界ジュニア選手権（7月26～31日、ルーマニア・ブカレスト）**

《男子フリースタイル》▼50kg級 派遣なし、▼55kg級 森下史崇（日体大）＝9位、▼60kg級 桑原諒（早大）＝19位、▼66kg級 岩渕尚紀（拓大）＝18位、▼74kg級 嶋田大育（国士舘大）＝12位、▼84kg級 佐々木健吾（日体大）＝27位、▼96kg級 馬場貴大（専大）＝5位、▼120kg級 岡倫之（日大）＝19位

《男子フリースタイル国別対抗得点》[1] ロシア、[2] グルジア、[3] イラン… [14] 日本

《男子グレコローマン》▼50kg級 香川智彦（東洋大）＝16位、▼55kg級 中野智章（日体大）＝5位、▼60kg級 山口優（徳山大）＝32位、▼66kg級 遠藤彪梧（明大）＝26位、▼74kg級 中村隆春（日体大）＝30位、▼84kg級 菊地峻（青山学院大）＝29位、▼96kg級 大坂晟（早大）＝17位、▼120kg級 前川勝利（早大）17位

《男子グレコローマン国別対抗得点》[1] グルジア、[2] アゼルバイジャン、[3] ロシア、… [22] 日本

《女子》▼48kg級 長沼美香（至学館大）＝優勝、▼44kg級 谷地美紀（至学館大）＝8位、▼51kg級 志土地希果（至学館大）＝優勝、▼55kg級 村田夏南子（JOCアカデミー／東京・安部学院高）＝優勝、▼59kg級 伊藤友莉香（環太平洋大）＝優勝、▼63kg級 渡利璃穂（至学館大）＝5位、▼67kg級 土性沙羅（愛知・至学館高）＝優勝、▼72kg級 新井明恵（法大）＝14位

《女子国別対抗得点》[1] 日本、[2] ロシア、[2] 米国

**◇ジオルコスキ国際大会＝男子フリースタイル（7月30～31日、ポーランド・ターノウポドゴレン）**

▼66kg級 佐藤吏（読売千葉広告社）＝17位

◇ポーランド女子オープン（7月30～31日、ポーランド・ターノウポドゴルン）

▼59kg級 中田絵理子（ワセダクラブ）＝3位

◇アジア・カデット選手権（8月4～7日、タイ・バンコク）

《男子フリースタイル》▼42kg級 清水洸希（石川・野々市中）＝5位、▼46kg級 高橋拓也（茨城・霞ヶ浦高）＝5位、▼50kg級 平川耶磨人（熊本・玉名工高）＝12位、▼54kg級 松宮大樹（茨城・霞ヶ浦高）＝10位、▼58kg級 田辺雄史（大阪・豊中十一中）＝5位、▼63kg級 菅原翔太（福岡・三井高）＝9位、▼69kg級 新田拓馬（岐阜・中津商高）＝9位、▼76kg級 広瀬省吾（岐阜・岐阜工高）＝5位、▼85kg級 大橋主典（山梨・農林高）＝9位、▼100kg級 宮園雄太（沖縄・浦添工高）＝3位

《男子フリースタイル国別対抗得点》[1] イラン、[2] インド、[3] カザフスタン、… [7] 日本

《男子グレコローマン》▼42kg級 斎藤僚太（東京・荒川三中）＝5位、▼46kg級 市岡克利（岐阜・中津商高）＝5位、▼50kg級 坂口元氣（奈良・添上高）＝3位、▼54kg級 片桐正貴（大阪・興国高）＝5位、▼58kg級 細川献介（愛媛・八幡浜工高）＝5位、▼63kg級 堀後雄太（和歌山・和歌山北高）＝7位、▼69kg級 花山尚生（愛媛・八幡浜工高）＝5位、▼76kg級 山賀快成（石川・金沢北陵高）＝10位、▼85kg級 田中百年男（奈良・天理教校学園高）＝11位、▼100kg級 服部弘慶（三重・朝明高）＝5位

《男子グレコローマン国別対抗得点》[1] キルギス、[2] イラン、[3] インド、… [6] 日本 49点

《女子》▼38kg級 派遣なし、▼40kg級 派遣なし、▼43kg級 松本李恵（愛知・至学館高）＝3位、▼46kg級 坂上楓舞希（愛知・至学館高）＝2位、▼49kg級 入江ななみ（福岡・小倉商高）＝優勝、▼52kg級 金子和（群馬・大泉高）＝8位、▼56kg級 小島志穂（愛知・至学館高）＝2位、▼60kg級 鈴木紅夏（群馬・太田商高）＝優勝、▼65kg級 市川ゆりか（愛知・至学館高）＝6位、▼70kg級 土橋奏珠（秋田・八郎潟中）＝3位

《女子国別対抗得点》[1] インド、[2] カザフスタン、[3] モンゴル、[4] 日本

◇ピトラシンスキ国際大会（8月5～6日、ポーランド・ラドム）

《男子グレコローマン》▼96kg級 斎川哲克（両毛ヤクルト販売）＝5位

**◇世界カデット選手権（8月23～28日、ハンガリー・ソンバトヘイ）**

《男子フリースタイル》▼42kg級 藤田雄大（三重・いなべクラブ）＝10位、▼46kg級 乙黒圭祐（JOCアカデミー）＝3位、▼50kg級 中村倫也（埼玉・花咲徳栄高）＝3位、▼54kg級 高谷大地（京都・網野高）＝3位、▼58kg級 川瀬克祥（三重・いなべ総合学園高）＝8位、▼63kg級 伊藤和真（京都・網野高）＝15位、▼69kg級 水野真斗（京都・網野高）＝15位、▼76kg級 浅井翼（京都・京都八幡高）＝19位、▼85kg級 武田光司（埼玉・埼玉栄高）＝16位、▼100kg級 山本晋也（埼玉・花咲徳栄高）＝13位

《男子フリースタイル国別対抗得点》[1] ロシア、[2] イラン、[3] インド、… [8] 日本

《男子グレコローマン》▼42kg級 小林大樹（愛媛・北郷中）＝11位、▼46kg級 市岡克利（岐阜・中津商高）＝5位、▼50kg級 文田健一郎（山梨・韮崎工高）＝3位、▼54kg級 泉田隼希（新潟・新潟県央工高）＝15位、▼58kg級 田中勇氣（京都・南京都高）＝8位、▼63kg級 屋比久翔平（沖縄・浦添工高）＝22位、▼69kg級 前田祐也（鳥取・倉吉総合産業高）＝17位 【76kg級 池澤邑樹（埼玉・花咲徳栄高）＝21位、▼85kg級 与那覇竜太（沖縄・浦添工高）＝18位、▼100kg級 吉川裕介（茨城・霞ヶ浦）＝19位

《男子グレコローマン国別対抗得点》[1] アゼルバイジャン、[2] ロシア、[3] イラン、… [12] 日本 17点

《女子》▼38kg級 派遣なし、▼40kg級 派遣なし、▼43kg級 奥野里菜（三重・久居高）＝3位、▼46kg級 片桐左智（大阪・堺女高）＝2位、▼49kg級 宮原優（JOCアカデミー／東京・安部学院高）＝優勝、▼52kg級 川井梨紗子（愛知・至学館高）＝優勝、▼56kg級 坂野結衣（東京・安部学院高）＝優勝、▼60kg級 坂本希和（愛知・至学館高）＝9位、▼65kg級 古市雅子（JOCアカデミー）＝優勝、▼70kg級 阿部梨乃（東京・安部学院高）＝5位

《女子国別対抗得点》[1] ロシア、[2] 日本、[3] ウクライナ

**◇世界選手権（9月12～18日、トルコ・イスタンブール）**

《男子フリースタイル》▼55kg級 湯元進一（自衛隊）＝8位、▼60kg級 湯元健一（ALSOK）＝3位、▼66kg級 米満達弘（自衛隊）＝2位、▼74kg級 高橋龍太（自衛隊）＝27位、▼84kg級 松本真也（警視庁）＝8位、▼96kg級 磯川孝生（徳山大職）＝23位、▼120kg級 荒木田進謙（専大クラブ）＝16位

《男子フリースタイル国別対抗得点》[1] ロシア、[2] イラン、[3] 米国、… [7] 日本

《男子グレコローマン》▼55kg 級 長谷川恒平（福一漁業）= 8 位、▼60kg 級 松本隆太郎（群馬ヤクルト販売）= 38 位、▼66kg 級 岡本佑士（警視庁）= 9 位、▼74kg 級 金久保武大（ALSOK）= 23 位、▼84kg 級 岡太一（自衛隊）= 25 位、▼96kg 級 有菌拓真（山梨学院大）= 43 位、▼120kg 級 新庄寛和（自衛隊）= 27 位

《男子グレコローマン国別対抗得点》[1] ロシア、[2] トルコ、[3] イラン、… [23] 日本

《女子》▼48kg 級 小原日登美（自衛隊）= 優勝、▼51kg 級 志土地希果（至学館大）= 5 位、▼55kg 級 吉田沙保里（ALSOK）= 優勝、▼59kg 級 斉藤貴子（自衛隊）= 3 位、▼63kg 級 伊調馨（ALSOK）= 優勝、▼67 kg 級 井上佳子（クリナップ）= 3 位、▼72kg 級 浜口京子（ジャパンビバレッジ）= 13 位

《女子国別対抗得点》[1] 日本、[2] カナダ、[3] モンゴル

**◇サンキスト・キッズ国際大会（10月29～30日、米国・アリゾナ州メサ）**

《男子フリースタイル》▼55kg 級 富田和秀（自衛隊）= 3 位、▼60kg 級 守田泰弘（山口県協会）= 二失、▼66kg 級 藤本浩平（警視庁）= 四失、▼74kg 級 鈴木崇之（警視庁）= 五失、▼84kg 級 浅見哲郎（東京・東亜学園高教）= 四失、▼84kg 級 鈴木聖二（専大）= 四失

《男子グレコローマン》▼55kg 級 清水早伸（自衛隊）= 優勝、▼60kg 級 倉本一真（自衛隊）= 3 位、▼60kg 級 佐々木孝（自衛隊）= 4 位、▼74kg 級 葛西直人（自衛隊）= 3 位、▼74kg 級 角功介（自衛隊）= 五失、▼84kg 級 伊藤諒（自衛隊）= 優勝、▼120kg 級 曾我部健（日亜化学工業）= 二失

《女子》▼48kg 級 桜井宏美（ランクアップ平野屋）= 七失、▼51kg 級 鈴木綾乃（ジャパンビバレッジ）= 優勝、▼55kg 級 松川知華子（ジャパンビバレッジ）= 五失、▼59kg 級 正田絢子（網野クラブ）= 優勝、▼63kg 級 永島聖子（スポーツビズ）= 2 位、▼67kg 級 宇野杏奈（日体大）= 3 位、▼72kg 級 鈴木博恵（クリナップ）= 優勝

**◇マーキュリーカップ（11月19日、ロシア・ハバロフスク）**

ロシア○ [8-3] ●日本

◇プレ五輪 (12月8～11日、英国・ロンドン)

《男子フリースタイル》▼60kg級 鈴木康寛 (拓大) = 5位、▼66kg級 田中幸太郎 (早大) = 2位

国内

◇全国高校選抜大会 (3月27～29日、新潟・新潟市体育館)

※東日本大震災のため中止

◇ジュニアクイーンズカップ (4月2～3日、東京・駒沢体育館)

《優勝者》▼44kg級 谷地美紀 (至学館大)、▼48kg級 長沼美香 (至学館大)、▼51kg級 志土地希果 (至学館大) ▼55kg級 村田夏南子 (JOCアカデミー/東京・安部学院高)、▼59kg級 伊藤友莉香 (環太平洋大)、▼63kg級 渡利璃穂 (至学館大)、▼67kg級 土性沙羅 (愛知・至学館高)、▼72kg級 新井明恵 (法大)

《個人賞》▼最優秀選手賞 伊藤友莉香 (59kg級=環太平洋大)、▼優秀選手賞 渡利璃穂 (63kg級=至学館大)

◇JOC杯ジュニアオリンピック (4月23～24日、神奈川・横浜文化体育館)

《男子ジュニア・フリースタイル優勝者》▼50kg級 中村弦斗 (京都・京都八幡高)、▼55kg級 森下史崇 (日体大)、▼60kg級 桑原諒 (早大)、▼66kg級 岩渕尚紀 (拓大)、▼74kg級 嶋田大育 (国士館大)、▼84kg級 佐々木健吾 (日体大)、▼96kg級 山本康稀 (埼玉・花咲徳栄高)、▼120kg級 岡倫之 (日大)

《男子ジュニア・グレコローマン優勝者》▼50kg級 香川智彦 (東洋大)、▼55kg級 中野智章 (日体大)、▼60kg級 山口優 (徳山大)、▼66kg級 遠藤彪梧 (明大)、▼74kg級 中村隆春 (日体大)、▼84kg級 菊池峻 (青山学院大)、▼96kg級 大坂昂 (早大)、▼120kg級 前川勝利 (早大)

《男子カデット・フリースタイル優勝者》▼42kg級 藤田雄大 (三重・いなベクラブ)、▼46kg級 藤波勇飛 (三重・いなベクラブ)、▼50kg級 中村倫也 (埼玉・花咲徳栄高)、▼54kg級 高谷大地 (京都・網野高)、▼58kg級 川瀬克祥 (三重・いなべ総合学園高)、▼63kg級 伊藤和真 (京都・網野高)、▼69kg級 水野真斗 (京都・網野高)、▼76kg級 浅井翼 (京都・京都八幡高)、▼85kg級 武田光司 (埼玉・埼玉栄高)、▼100kg級 山

本晋也（埼玉・花咲徳栄高）

《男子カデット・グレコローマン優勝者》▼42kg級 小林大樹（愛媛・北郷中）、▼46kg級 市岡克利（岐阜・中津商高）、▼50kg級 文田健一郎（山梨・韮崎工高）、▼54kg級 泉田隼希（新潟・新潟県央工高）、▼58kg級 田中勇氣（京都・南京都高）、▼63kg級 屋比久翔平（沖縄・浦添工高）、▼69kg級 前田祐也（鳥取・倉吉総合産業高）、▼76kg級 池澤邑樹（埼玉・花咲徳栄高）、▼85kg級 与那覇竜太（沖縄・浦添工高）、▼100kg級 園田新（滋賀・日野高）

《女子ジュニア優勝者》▼44kg級 辻彩香（大阪・堺女高）、▼48kg級 入江ゆき（九州共立大）、▼51kg級 櫻井友香（大東大）、▼55kg級 平野遥香（日大）、▼59kg級 村田夏南子（JOCアカデミー／東京・安部学院高）、▼63kg級 歌田圭純（東洋大）、▼67kg級 橋本千紘（日大）、▼72kg級 新井明恵（法大）

《女子カデット優勝者》▼38kg級 上野智子（東京・GOLD KID'S）、▼40kg級 五十嵐未帆（千葉・関宿クラブ）、▼43kg級 加賀田葵夏（東京・GOLD KID'S）、▼46kg級 片桐左智（大阪・堺女高）、▼49kg級 入江ななみ（福岡・小倉商高）、▼52kg級 木村安里（群馬・西邑楽高）、▼56kg級 坂野結衣（東京・安部学院高）、▼60kg級 香山芳美（東京・安部学院高）、▼65kg級 古市雅子（JOCアカデミー）、▼70kg級 阿部梨乃（東京・安部学院高）

《個人賞》▼JOC杯・男子 森下史崇（ジュニア・フリースタイル55kg級＝日体大）、▼同・女子 平野遥香（55kg級＝日大）、▼オリンピック・ゴールドメダル賞・男子ジュニア 遠藤彪梧（グレコローマン66kg級＝明大）、▼同・男子カデット 高谷大地（フリースタイル54kg級＝京都・網野高）、▼同・女子ジュニア 入江ゆき（48kg級＝九州共立大）、▼同・女子カデット 坂野結衣（56kg級＝東京・安部学院高）

◇明治杯全日本選抜選手権（4月29～30日、東京・代々木競技場第2体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 稲葉泰弘（警視庁）、▼60kg級 湯元健一（ALSOK）、▼66kg級 米満達弘（自衛隊）、▼74kg級 高橋龍太（自衛隊）、▼84kg級 松本真也（警視庁）、▼96kg級 磯川孝生（徳山大職）、▼120kg級 荒木田進謙（専大クラブ）

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 長谷川恒平（福一漁業）、▼60kg級 松本隆太郎（群馬ヤクルト販売）▼66kg級 岡本佑士（拓大クラブ）、▼74kg級 金久保武大（ALSOK）、▼84kg級 天野雅之（中大職）、▼96kg級 なし（ドーピング違反が発覚し）

優勝を取り消し)、▼120kg級 前川勝利(早大)

《女子優勝者》▼48kg級 坂本日登美(自衛隊)、▼51kg級 志土地希果(至学館大)、▼55kg級 吉田沙保里(ALSOK)、▼59kg級 斉藤貴子(自衛隊)、▼63kg級 伊調馨(ALSOK)、▼67kg級 土性沙羅(愛知・至学館高)、▼72kg級 浜口京子(ジャパンビバレッジ)

《個人賞》▼明治杯 松本隆太郎(男子グレコローマン60kg級=群馬ヤクルト販売)、▼優秀選手賞・男子グレコローマン 長谷川恒平(55kg級=福一漁業)、▼同・男子フリースタイル 米満達弘(66kg級=自衛隊)、▼同・女子 吉田沙保里(55kg級=ALSOK)

**◇東日本学生リーグ戦(5月17~20日、東京・駒沢体育館) = 決勝成績**

早大○ [5-2] ●拓大

(A組順位) [1] 早大、[2] 日大、[3] 中大、[4] 青山学院大、[5] 東洋大、[6] 大東大、[7] 法大、[8] 東農大

(B組順位) [1] 拓大、[2] 専大、[3] 国士舘大、[4] 山梨学院大、[5] 明大、[6] 神奈川大、[7] 群馬大、[8] 防大

《個人賞》▼一部最優秀選手賞 山口剛(早大)、▼一部敢闘賞 高谷惣亮(拓大)、▼最優秀監督賞 山方隆之(早大)、▼ゴールデンホイッスル賞 岩田侑太郎(国士舘大)

**◇西日本春季学生リーグ戦(5月21~22日、大阪・堺市金岡公園体育館) = 決勝成績**

日本文理大○ [4-3] ●中京学院大

《順位》[1] 日本文理大、[2] 中京学院大、[3] 徳山大、[4] 福岡大、[5] 立命館大、[6] 同志社大、[7] 近大

**◇沼尻直杯全国中学生選手権(6月11~12日、茨城・茨城県スポーツセンター)**

《男子優勝者》▼38kg級 荒木大貴(熊本・玉名)、▼42kg級 成國大志(東京・東深沢)、▼47kg級 藤波勇飛(三重・西朝明)、▼53kg級 神鉄平(神奈川・港)、▼59kg級 田辺雄史(大阪・豊中十一)、▼66kg級 山崎弥十朗(埼玉・埼玉栄)、▼73kg級 梅原駿(静岡・門池)、▼85kg級 山本泰輝(静岡・吉原二)、▼110kg級 坂田龍星(埼玉・飯能西)

《女子優勝者》▼37kg級 澤葉菜子(大阪・古江台)、▼41kg級 加賀田葵夏(東京・高南)、▼46kg級 河内美樹(大阪・堺リベラル)、▼52kg級 向田真優(東京・稲付)、

▼58 kg級 木村遥陽（青森・造道）、▼64 kg級 古市雅子（東京・稲付）、▼70 kg級 土橋奏珠（秋田・八郎潟）

《個人賞》▼沼尻直杯 藤波勇飛（男子 47kg 級＝三重・西朝明）、▼茨城県知事賞 古市雅子（女子 64kg 級＝東京・稲付）、▼水戸市長賞 田辺雄史（男子 59kg 級＝大阪・豊中十一）、▼大会会長賞 木村遥陽（女子 58kg 級＝青森・造道）、▼茨城県協会会長賞 梅原駿（男子 73kg 級＝静岡・門池）

**◇東日本学生春季新人選手権（6月15～17日、東京・駒沢体育館）**

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg 級 西洗大（早大）、▼60kg 級 森下史崇（日体大）、▼66kg 級 砂川航祐（日体大）、▼74kg 級 嶋田大育（国士舘大）、▼84kg 級 亀山晃寛（山梨学院大）、▼96kg 級 田中哲矢（大東大）、▼120kg 級 中村圭佑（日大）

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg 級 木村洋貴（日体大）、▼60kg 級 池田圭介（早大）、▼66kg 級 長崎宏樹（山梨学院大）、▼74kg 級 池澤峻介（専大）、▼84kg 級 奥田啓介（拓大）、▼96kg 級 田中哲矢（大東大）、▼120kg 級 村木孝太郎（拓大）

**◇東日本学生女子選手権（6月16日、東京・駒沢体育館）**

《優勝者》▼48kg 級 田中亜里沙（早大）、▼51kg 級 平野遥香（日大）、▼55kg 級 木下茜（法大）、▼59kg 級 新井千明（早大）、▼63kg 級 歌田圭純（東洋大）、▼67kg 級 橋本千紘（日大）、▼72kg 級 飯島千晶（日大）

**◇全日本社会人選手権（7月2～3日、埼玉・和光市総合体育館）**

《団体戦優勝チーム》▼実業団対抗 ALSOK総合警備保障、▼クラブ対抗 警視庁ク、▼女子実業団・クラブ混成対抗 代々木ク

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg 級 富田和秀（自衛隊）、▼60kg 級 守田泰弘（山口県協会）、▼66kg 級 藤本浩平（警視庁）、▼74kg 級 鈴木崇之（警視庁）、▼84kg 級 鈴木聖二（専大）、▼96kg 級 浅見哲郎（東京・東亜学園高教）、▼120kg 級 高林努（ミヨシ商事岡山支店）

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg 級 清水早伸（自衛隊）、▼60kg 級 佐々木孝（自衛隊）、▼66kg 級 倉本一真（自衛隊）、▼74kg 級 葛西直人（自衛隊）、▼84kg 級 角功介（自衛隊）、▼96kg 級 伊藤諒（自衛隊）、▼120kg 級 曾我部健（日亜化学工業）、

《女子》▼48kg 級 桜井宏美（ランクアップ平野屋）、▼51kg 級 鈴木綾乃（ジャ

パンビバレッジ)、▼55kg級 松川知華子(ジャパンビバレッジ)、▼59kg級 正田絢子(網野ク)、▼63kg級 永島聖子(スポーツビス)、▼67kg級 宇野安奈(日体大)、▼72kg級 鈴木博恵(クリナップ)

《個人賞》▼最優秀選手賞・フリースタイル 藤本浩平(66kg級=警視庁)、▼同・グレコローマン 倉本一真(自衛隊)、▼同・女子 松川知華子(55kg級=ジャパンビバレッジ)、▼優秀選手賞・フリースタイル 鈴木聖二(84kg級=専大ク)、▼同・グレコローマン 角功介(自衛隊)、▼敢闘賞・フリースタイル 大館信也(60kg級=八戸工大一高)、▼同・グレコローマン 北岡秀王(滋賀・日野高教)、▼同・女子敢闘賞 桜井宏美(ランクアップ平野屋)

#### ◇西日本学生新人戦(7月2~3日、大阪・堺市金岡公園体育館)

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 石橋宏昭(徳山大)、▼60kg級 相田章統(徳山大)、▼66kg級 大野正和(立命館大)、▼74kg級 椿和浩(九州共立大)、▼84kg級 坂野修平(徳山大)、▼96kg級 村田貴雅(徳山大)、▼120kg級 門垣太志(天理大)

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 守田将弘(徳山大)、▼60kg級 前田忍(日本文理大)、▼66kg級 佐々木将吾(日本文理大)、▼74kg級 元井淳貴(徳山大)、▼84kg級 川畑起人(福岡大)、▼96kg級 大石亮(中京学院大)、▼120kg級 村上佳児(徳山大)

#### ◇インターハイ(8月1~4日、岩手・八幡平市総合運動公園体育館)

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦、[2] 埼玉・花咲徳栄、[3] 沖縄・浦添工、長崎・島原

《個人戦優勝者》▼50kg級 阿部宏隆(茨城・鹿島学園)、▼55kg級 高橋侑希(三重・いなべ総合学園)、▼60kg級 川瀬克祥(三重・いなべ総合学園)、▼66kg級 水野真斗(京都・網野)、▼74kg級 山下俊介(茨城・霞ヶ浦)、▼84kg級 与那覇竜太(沖縄・浦添工)、▼96kg級 山本康稀(埼玉・花咲徳栄)、▼120kg級 園田新(滋賀・日野)

#### ◇全国高校女子選手権(8月17日、大阪・堺市金岡公園体育館)

《優勝者》▼40kg級 清水目優生(青森・光星学院野辺地)、▼43kg級 松元李恵(愛知・至学館)、▼46kg級 登坂絵莉(愛知・至学館)、▼49kg級 入江ななみ(福岡・小倉商)、▼52kg級 川井梨紗子(愛知・至学館)、▼56kg級 村田夏南子(東京・安部学院高/JOCアカデミー)、▼60kg級 望月英早乃(東京・安部学院)、▼65kg級 香山芳美(東京・安部学院)、▼70kg級 土性沙羅(愛知・至学館)

**◇全国高校生グレコローマン選手権（8月17～19日、大阪・堺市金岡公園体育館）**

《優勝者》▼50kg級 文田健一郎（山梨・韮崎工）、▼55kg級 太田忍（山口・柳井学園）、▼60kg級 井上征洋（兵庫・育英）、▼66kg級 湯田敬太（香川・高松北）、▼74kg級 永井凌太（香川・香川中央）、▼84kg級 与那覇竜太（沖縄・浦添工）、▼96kg級 志喜屋正明（沖縄・浦添工）、▼120kg級 園田新（滋賀・日野）

**◇全日本学生選手権（8月29日～9月1日、東京・駒沢体育館）**

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 高安直人（日体大）、▼60kg級 石田智嗣（早大）、▼66kg級 小石原拓馬（日体大）、▼74kg級 高谷惣亮（拓大）、▼84kg級 山口剛（早大）、▼96kg級 大坂昂（早大）、▼120kg級 岡倫之（日大）

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 中野智章（日体大）、▼60kg級 泉武志（日体大）、▼66kg級 井上貴尋（日体大）、▼74kg級 中村隆春（日体大）、▼84kg級 辰川裕也（日体大）、▼96kg級 大坂昂（早大）、▼120kg級 村木孝太郎（拓大）

《女子優勝者》▼48kg級 入江ゆき（九州共立大）、▼51kg級 平野遥香（日大）、▼55kg級 浜田千穂（日体大）、▼59kg級 伊藤友莉香（環太平洋大）、▼63kg級 佐藤文香（至学館大）、▼67kg級 渡利璃穂（至学館大）、▼72kg級 増尾優華（至学館大）

《個人賞》▼文部科学大臣賞 高谷惣亮（男子フリースタイル74kg級＝拓大）、▼優秀選手賞・フリースタイル 石田智嗣（早大）、▼同・グレコローマン 井上貴尋（日体大）、▼同・女子 伊藤友莉香（環太平洋大）、

**◇国民体育大会（10月2～5日、山口・周南市新南陽体育館）**

《成年フリースタイル優勝者》▼55kg級 守田泰弘（山口・山口県協会）、▼60kg級 前田翔吾（愛知・ニューギン）、▼66kg級 小島豪臣（山口・K-POWERS）、▼74kg級 高谷惣亮（京都・拓大）、▼84kg級 門間順輝（秋田・城東消防署）、▼96kg級 磯川孝生（山口・徳山大職）、▼120kg級 荒木田進謙（青森・専大ク）

《成年グレコローマン優勝者》▼55kg級 峯村亮（神奈川・神奈川大職）、▼60kg級 城戸義貴（熊本・自衛隊）、▼66kg級 清水博之（滋賀・自衛隊）、▼74kg級 藤村義（山口・自衛隊）、▼84kg級 天野雅之（福岡・中大職）、▼96kg級 斎川哲克（栃木・両毛ヤクルト販売）、▼120kg級 前川勝利（茨城・早大）

《少年フリースタイル優勝者》▼50kg級 阿部宏隆（茨城・鹿島学園）、▼55kg級 高

橋侑希（三重・いなべ総合学園）、▼60kg級 伊藤和真（京都・網野）、▼66kg級 山縣良嗣（神奈川・日大藤沢）、▼74kg級 白井勝太（東京・帝京）、▼84kg級 吉岡靖典（埼玉・花咲徳栄）、▼96kg級 山本康稀（埼玉・花咲徳栄）、▼120kg級 池田雄人（愛知・星城）

《少年グレコローマン優勝者》▼50kg級 文田健一郎（山梨・韮崎工）、▼55kg級 太田忍（山口・柳井学園）、▼60kg級 雨宮隆二（山梨・韮崎工）、▼66kg級 中村百次郎（佐賀・鹿島実）、▼74kg級 奥井眞生（和歌山・和歌山工）、▼84kg級 与那覇竜太（沖縄・浦添工）、▼96kg級 志喜屋正明（沖縄・浦添工）、▼120kg級 園田新（滋賀・日野）

《総合成績》[1] 山口、[2] 岐阜、[3] 京都、[4] 茨城、[5] 埼玉、[6] 山梨、[7] 三重、[8] 青森

**◇全日本女子オープン選手権（10月15～16日、静岡県三島市・日大国際関係学部大講堂）**

《優勝選手》▼48kg級 山本美憂（H a k u j u）、▼51kg級 宮原優（J O Cアカデミー／安部学院）、▼55kg級 新井千明（早大）、▼59kg級 中田絵理子（ワセダクラブ）、▼63kg級 望月英早乃（東京・安部学院高）、▼67kg級 工藤佳代子（自衛隊）、▼72kg級 出場なし

**◇全日本大学グレコローマン選手権（10月19～20日、東京・駒沢体育館）**

《優勝者》▼55kg級 田野倉翔太（日体大）、▼60kg級 矢野慎也（拓大）、▼66kg級 富塚拓也（日体大）、▼74kg級 中村隆春（日体大）、▼84kg級 辰川裕也（日体大）、▼96kg級 有菌拓真（山梨学院大）、▼120kg級 金澤勝利（山梨学院大）

《大学対抗得点》[1] 日体大（4年ぶり14度目）、[2] 拓大、[3] 早大

《個人賞》▼最優秀選手 辰川裕也（84kg級＝日体大）、▼敢闘賞 矢野慎也（60kg級＝拓大）、▼最優秀監督賞 松本慎吾（日体大）、▼ゴールデンホイスル賞 新谷勝也（神奈川大）

**◇西日本学生選手権（10月21～23日、大阪・堺市金岡公園体育館）**

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 宇都宮大輔（福岡大）、▼60kg級 石橋宏昭（徳山大）、▼66kg級 黒崎辰馬（福岡大）、▼74kg級 亀井竜昇（日本文理大）、▼84kg級 山口高幸（徳山大）、▼96kg級 横井健人（中京学院大）、▼120kg級 原芳貴（徳

山大)

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 桑木黎(中京学院大)、▼60kg級 財津拓弥(中京学院大)、▼66kg級 黒崎辰馬(福岡大)、▼74kg級 近藤賢介(立命館大)、▼84kg級 加藤敬典(中京学院大)、▼96kg級 福井裕士(天理大)、▼120kg級 岩宮亜貴彦(徳山大)

《個人賞》▼グレコローマン最優秀選手賞 黒崎辰馬(福岡大)、▼フリースタイル最優秀選手賞 福井裕士(天理大)

**◇全日本大学選手権(11月12~13日、岐阜県中津川市・東美濃ふれあいセンター)**

《優勝者》▼55kg級 半田守(専大)、▼60kg級 池田智(日大)、▼66kg級 井上貴尋(日体大)、▼74kg級 高谷惣亮(拓大)、▼84kg級 佐々木健吾(日体大)、▼96kg級 馬場貴大(専大)、▼120kg級 村木孝太郎(拓大)

《大学対抗得点》[1] 拓大、[2] 早大、[3] 日体大

《個人賞》▼最優秀選手賞 高谷惣亮(拓大)、▼最優秀監督賞 須藤元気(拓大)

**◇全国社会人オープン選手権(11月19~20日、東京・スポーツ会館)**

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 山内拓真(自衛隊)、▼60kg級 内村勇太(前川製作所)、▼66kg級 五位塚優(山梨クラブ)、▼74kg級 小島豪臣(K-POWERS)、▼84kg級 永田裕城(自衛隊)、▼96kg級 中井伸一(中大クラブ)、▼120kg級 アントニー・ブライアン・ベネロカサノバ(前川製作所)

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 大谷康太(専大クラブ)、▼60kg級 土田尚人(新潟・新潟県央工高)、▼66kg級 板倉史也(エス・ピー・ネットワーク)、▼74kg級 江藤紀友(自衛隊)、▼84kg級 渡部友章(クリナップ)、▼96kg級 福田広樹(自衛隊)、▼120kg級 河野隆太(鈴鹿国際大学院)

《女子優勝者》▼48kg級 植野さくら(自衛隊)、▼51kg級 太田理穂(自衛隊)、▼55kg級 池亀優希(自衛隊)、▼59kg級 正田絢子(網野クラブ)、▼63kg級 出場なし、▼67kg級 出場なし、▼72kg級 出場なし

《個人賞》▼JOC杯 小島豪臣(男子フリースタイル74kg級=K-POWERS)、▼最優秀選手賞・男子フリースタイル 内村勇太(60kg級=前川製作所)、▼同・男子グレコロー

マン 板倉史也 (66kg 級=エス・ピー・ネットワーク)、▼同・女子 正田絢子 (59kg 級=網野クラブ)、▼優秀選手賞・男子フリースタイル 五位塚優 (66kg 級=山梨クラブ)、▼同・男子グレコローマン 江藤紀友 (74kg 級=自衛隊)、▼女子 植野さくら (48kg 級=自衛隊) ▼敢闘賞・男子フリースタイル 中井伸一 (96kg 級=中大クラブ)、▼同・男子グレコローマン 渡部友章 (84kg 級=クリナップ)

**◇東日本学生秋季新人選手権 (11月22～24日、東京・駒沢体育館)**

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg 級 西山凌代 (拓大)、▼60kg 級 池田智 (日大)、▼66kg 級 近藤達矢 (専大)、▼74kg 級 山中良一 (日体大)、▼84kg 級 中村風太 (山梨学院大)、▼96kg 級 北村公平 (早大)、▼120kg 級 坂元将悟 (東洋大)

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg 級 金澤翔太 (日体大)、▼60kg 級 鴨居正和 (山梨学院大)、▼66kg 級 近藤達矢 (専大)、▼74kg 級 嶋田大育 (国士舘大)、▼84kg 級 中村風太 (山梨学院大)、▼96kg 級 米平安寛 (日体大)、▼120kg 級 角田友紀 (東農大)

《個人賞》▼最優秀選手賞・フリースタイル 北村公平 (96kg 級=早大)、▼同・グレコローマン 近藤達矢 (66kg 級=専大)、▼敢闘賞・フリースタイル 池田智 (60kg 級=日大)、▼同・グレコローマン 中村風太 (84kg 級・山梨学院大)、▼ゴールデンホイッスル賞 泉武志 (日体大)

**◇全国中学選抜選手権 (12月3～4日、東京・駒沢体育館)**

《男子優勝者》▼35kg 級 松井稜 (石尾台1/桑名)、▼38kg 級 阿部敏弥 (稲付1/JOC アカデミー)、▼42kg 級 成國大志 (東深沢2/ゴールドキッズ)、▼47kg 級 藤田雄大 (光陵3/いなべ)、▼53kg 級 藤波勇飛 (西朝明3/いなべ)、▼59kg 級 嶋江翔也 (西部3/佐賀県鹿島)、▼66kg 級 田辺雄史 (豊中第十一3/吹田市民教室)、▼73kg 級 梅原駿 (門池3/沼津)、▼85kg 級 山本泰輝 (吉原第二3/沼津)、▼100kg 級 坂田龍星 (飯能西3/はんのうCSC 山中道場)

《女子優勝者》▼34kg 級 山田那瑠亜 (富岡1/札幌ちびっ子)、▼37kg 級 川村きこ (大子2/大子ジュニア)、▼40kg 級 浅倉栞南 (柏第二2/ゴールドキッズ)、▼44kg 級 加賀田葵夏 (高南2/ゴールドキッズ)、▼48kg 級 谷山菜緒 (寝屋川第六2/エンジョイ)、▼52kg 級 向田真優 (稲付2/JOC アカデミー)、▼57kg 級 榎本美鈴 (湊2/八工大一高レスリング OB 会 Jr. team)、▼62kg 級 高橋海寿々 (馬込東3/ゴールドキッズ)、▼70kg 級 古市雅子 (稲付3/JOC アカデミー)

《個人賞》▼東京都知事杯（男子最優秀選手） 藤波勇飛（53kg 級＝西朝明 3 / いなべ）、  
▼大会会長賞（女子最優秀選手） 向田真優（52kg 級＝稲付 / JOC アカデミー）

◇西日本学生秋季リーグ戦（12月3～4日、大阪・堺市金岡公園体育館）＝決勝成績

徳山大○ [4 - 3] ●福岡大

《順位》[1] 徳山大、[2] 福岡大、[3] 立命館大、[4] 中京学院大、[5] 同志社大、[6] 桃山学院大、[7] 日本文理大、[8] 近大

※徳山大は10季ぶり16度目の優勝

《個人賞》▼八田杯（一部最優秀選手） 高木瑛史（徳山大）、▼松井杯（一部敢闘賞）  
笠井晋吾（福岡大）、▼小田原杯（二部最優秀選手） 塩地竜児（帝塚山大）、▼井川杯  
（二部敢闘賞） 西村元（天理大）、▼岩野杯 伊藤織江副委員長（日本文理大）

◇天皇杯全日本選手権（12月21～23日、東京・代々木競技場第2体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg 級 湯元進一（自衛隊）、▼60kg 級 前田翔吾（ニューギン）、▼66kg 級 米満達弘（自衛隊）、▼74kg 級 高谷惣亮（拓大）、▼84kg 級 松本篤史（ALSOK）、▼96kg 級 磯川孝生（徳山大職）、▼120kg 級 荒木田進謙（専大クラブ）

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg 級 長谷川恒平（福一漁業）、▼60kg 級 松本隆太郎（群馬ヤクルト販売）、▼66kg 級 藤村義（自衛隊）、▼74kg 級 鶴巻幸（自衛隊）、▼84kg 級 天野雅之（中大職員）、▼96kg 級 斎川哲克（両毛ヤクルト販売）、▼120kg 級 新庄寛和（自衛隊）

《女子優勝者》▼48kg 級 小原日登美（自衛隊）、▼51kg 級 宮原優（JOCアカデミー / 東京・安部学院高）、▼55kg 級 吉田沙保里（ALSOK）、▼59kg 級 齊藤貴子（自衛隊）、▼63kg 級 伊調馨（ALSOK）、▼67kg 級 土性沙羅（愛知・至学館高）、▼72kg 級 浜口京子（ジャパンビバレッジ）

《個人賞》▼天皇杯 米満達弘（男子フリースタイル 66kg 級＝自衛隊）、▼男子フリースタイル最優秀選手賞 前田翔吾（60kg 級＝ニューギン）、▼男子グレコローマン最優秀選手賞 松本隆太郎（60kg 級＝群馬ヤクルト販売）、▼女子最優秀選手賞 小原日登美（51kg 級＝自衛隊）